

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	品川区立一本橋保育園
施設所在地	品川区大井2-25-1
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生物

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭があることから、子どもたちが日常的に様々な生物（植物、昆虫、水生生物等）に触れられる環境作りができるため、生物をテーマとした。
様々な生物に触れる中で、昨年度の年長が育てていたカブトムシに興味をもってよく観察していた子どもたちが、カブトムシの幼虫を引き継ぎ育てはじめる。

2. 活動スケジュール

4月～8月

- ・活動期間中にカブトムシの成虫の飼育
毎日飼育をする中で、カブトムシの生態や動きなどについて興味をもつようになった

10月

- ・カブトムシの幼虫のおうち作り
- ・カブトムシのフンについて考え、調べる

10月～11月

- ・日々の世話でフンの形や匂い、どうしてフンは土の上にあるのか、疑問に思ったことを自分たちで考えてみる

11月

- ・カブトムシの幼虫について観察し、興味を深める

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・様々な生物（植物や昆虫、水生生物等）に触れる機会を作るため、園庭で育てる野菜や植物、メダカの水槽等を用意した

・興味をもった生物について関心を深めるため、図鑑や絵本、塗り絵を準備した

・カブトムシの飼育を体験するため、昆虫ゼリー、きりふき、飼育のための資材やケースを用意した

・生まれた幼虫やフンを観察するため、昆虫飼育マット、虫眼鏡、空の2リットルペットボトル、バケツ、スコップ、ブルーシート

・ちびっこメダカのえさ・ベストサンド・ワイドカップ樹液の森・バイオ幼虫腐葉マット・虫よけシート・メダカの餌産卵繁殖用・カブト育成マット・ワイドビューフラット・水道水のカルキ抜き・メダカの水づくり・若竹イボ付・パワフル支柱・古い土のリサイクル・鉢底石

肥料有機マグカルン・まがあんぷ中粒・ハイポネックス肥料原液・つるもの園芸ネット・剪定はさみ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【カブトムシを育てる】

幼虫が入っている土を霧吹きで湿らせたり、フンが出てきたら取り除いたり幼虫の飼育環境を整えるようにした。当番活動が始まり、当番を中心に毎日世話をする。図鑑や絵本でカブトムシの生態を知れるようにし、成長過程を知る。成虫に成長すると、飼育ケースに入れ替えてゼリーをあげたり土を湿らせたりと世話をする。

【幼虫の家づくり】

成虫が死んでしまい、土に埋め命の大切さを感じる。土の中に成虫が卵を産んでいたことを知り、「ありがとう」と埋めたお墓に伝える。卵がかえり、飼育ケースから幼虫が見え、成長していることに気づくと「また幼虫を育てよう！」と命の繰り返しや尊さを学ぶ。

卵からかえった幼虫を飼育ケースから出し、2リットルペットボトルを使い、一匹ずつの部屋にする。

当番が毎日霧吹きでカブトムシの幼虫の部屋を湿らす。定期的に土の部屋のフンを取り出したり、新しい土を入れたりする。

【カブトムシのフンについて調べる】

お世話の中でフンの形や匂い、どうしてフンは上にあるのか、子どもたちが疑問に思ったことを拾い、まずどうしてか自分たちで考えて発表する。

図書館に行ってカブトムシに関する本を借り、調べようとする。わからない中でも、幼虫が土の中で土を食べていることなどの知った情報から、フンについて考えようとする姿がある。

【カブトムシの幼虫について観察し、興味を深める】

お世話をしている際に、幼虫についての疑問が次々に生まれ、借りてきた本を見るなどして

黒い点々模様やどうやって土を食べているかの謎を知り、幼虫の生態を知っていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【カブトムシを育てる】

日々の観察を通して、成虫になることに期待を膨らませながら、生き物の命を大切にしようとする姿が見られた。成虫に育った時には喜んだが、さなぎの際に羽がうまく育たず奇形の成虫が生まれると、なぜそうなったのか疑問に持つ。育て方の本を見て、幼虫からさなぎになった際にケースを持ち上げたり、触ってしまったことが原因ではないかと考える。

【幼虫の家づくり】

死んでしまった成虫に「今までありがとう」と伝えて保育者と一緒に埋めることができた。時々、保護者と帰る時に「カブトムシに手を合わせてるよ!」と話している姿が見られた。保護者もその様子を担任に報告くれたり、カブトムシについて子どもと一緒に調べているということも聞かれた。

当番の仕事で霧吹きでカブトムシの幼虫の部屋を湿らすことを行っているが、自分達で気づいて霧吹きをかけにくい。また週に一度、カブトムシのファンを取り除いたり、新しい土を入れたりすることを行う。最初よりもファンを取り除くことがスムーズになったり、幼虫を見て「どうして身体の中は黒いんだろう」「なんで土の上にファンがあるんだろう」と気になることも増えてきた。

【カブトムシのファンについて調べる】

幼虫のファンが土に出てきていることに気づき、幼虫が住みやすい環境を考えたり、調べたりして過ごす。保育者が「どうして幼虫のファンが上にあるのかな?」と問いかけると「幼虫が動いているから」「ファンをいっぱいして溢れちゃうから」「お尻を上をしているから」「上に上がってファンをしているから」とどんどん思ったことを発表することができていた。調べた結果、幼虫が動き回ることによってファンなどの粒の大きいものは上に上がっていき、細かい粒が下に下がっていくためとわかった。

実際に、上の部分に大きい粒があり、下にサラサラしたものを見つけると「ほんとだ!」と感心していた。

【カブトムシの幼虫について観察し、興味を深める】

お世話やファンの謎調べを通して幼虫についてより興味を持ち、疑問を広げる姿がみられた。

散歩先でも木を見てカブトムシを探そうとするが、今の季節は成虫ではないことを学び、友だち同士で教え合う。カブトムシの本を見つけ、借りてじっくり読んだり見たりする。



? つののなかどうなってる
 ? ようちゅうのからだのなかがま(はね)になる(はね)
 ? ようちゅうは なんびんする
 ? ようちゅうのあしのかず
 ? カブとむしがげんきにすごすためには
 (ようちゅう)

5. 振り返り

< 振り返りによって得た先生の気づき >

【カブトムシを育てる】

子どもたちの興味から活動に繋げることでより深く知ろうとする姿が見られた。

子どもたちから出るちょっとした疑問を拾い、奇形が生まれてしまった理由を考え、よりよい育て方を学んでいった。また、成虫に寿命があり、次の命に繋げるため、オスとメスを同じ飼育ケースに入れ、卵が生まれるのを待ち、期待を持てるようにした。

【幼虫の家づくり】

カブトムシが死んだら終わりではなく、散歩に行く入り口の近くに埋めたことによって、子ども達も思い出して友だちや保護者に話して話題にあがっているのが良かった。

新しい幼虫を育てることにしても、今までのことや本を通して調べたことをもとに育てることができている。以前よりも興味が出ていてお世話をしているうちに様々な気になることが出ていた。

【カブトムシのフンについて調べる】

なぜ? という疑問から、「土の中で動いているからじゃない?」などと

意見が出る。調べていく中で、自分たちでも少しずつ考えてみる力がついていったように感じる。

また、調べている中で、フンが野菜などを育てる際の肥料になることを知り、フンは捨てずにプランターに入れて栄養にするようにした。

子ども達が毎日お世話をすることによって、フンの他にも「なんで幼虫の体の中は黒くなってるんだろう」などとカブトムシの幼虫に対しての興味や気になることが以前よりも多くなってきた。

【カブトムシの幼虫について観察し、興味を深める】

・自分達でカブトムシについて気になることを調べたことによって、以前よりも幼虫のお世話や観察を意欲的に行うようになってきた。また、「寒い時は幼虫大丈夫なのかな?」と気にかける姿も見られたので、引き続き子ども達の気づきや発見を拾って興味の幅を広げていけるようにしていく。

・カブトムシだけでなく、さまざまな生き物にも興味を持つ子どももいたので、図鑑などを多く取り入れて自分で調べることのできる環境を作っていく。